



2019年度 法学部優秀論文賞

法学部の専門演習（ゼミ）における演習論文について審査を行った結果、以下の論文6本が法学部優秀論文賞として選ばれました。

政治部門

『少年法はなぜ厳罰化されたのか：唱道連合フレームワークによる要因分析』

竹井 希実（法律学科4年）

『2018年イタリア総選挙における五つ星運動の躍進—戦後の選挙地理および支持動員の歴史的展開を踏まえて』

山本 隆誠（政治学科4年）

『再犯抑止に適した受刑者処遇を考える—開放的処遇の可能性に関する事例研究』

三代川 龍翔（政治学科4年）

法律・国際企業関係法部門

『サイバー戦における文民の敵対行為 —武力紛争法の適用可能性について—』

今井 章弥（法律学科4年）

『民事における医療過誤の過失』

石村 遼太（法律学科4年）

『修復的司法という「権利」—日本の少年司法における修復的司法導入の検討—』

有馬 千裕（法律学科4年）

2020年3月

法学部長 猪股 孝史

